

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
長岡こども・医療・ 介護専門学校	平成25年1月8日	山本ヒサ	〒940-0047 新潟県長岡市弓町1-8-34 (電話)0258-35-1600			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 新潟総合学院	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話)025-210-8565			
目 的	本校は学校教育法に基づき、商業実務専門課程、教育・社会福祉専門課程を設置し、各分野の専門知識・技術を教授し、高度な専門知識・技術及び倫理観を有する人材を育成することをもって、社会に貢献し得る人材を輩出することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	こども医療保育科	3年(昼)	2747時間 (又は単位)	平成26年文部科学 省告示第6号	-
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	898時間 (又は単位)	1351時間 (又は単位)	0時間 (又は単位)	460時間 (又は単位)	38時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	95人	4人	20人	24人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有) 無 ■成績評価の基準・方法について 基準：A～Dの4段階 方法：レポート、期末試験、出席率、授業への取り組み状況などに 基づく。		
長期休み	■学年始め：4月7日 ■夏 季：7月27日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：3月19日～4月14日		卒業・進級条件	出席率90%以上 成績評価C評価以上 卒業基準検定を全て取得		
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無 ■長期欠席者への指導等の対応 カウンセリング等の実施にて対応		課外活動	■課外活動の種類 長岡市イベントのボランティア ■サークル活動 (有) 無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 保育所、幼稚園、児童福祉施設他 ■就職率 <sup>※1</sup> 97% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> 97% (平成27年度卒業者に関する平成28年2月時点の 情報)		主な資格・検定	保育士、幼稚園教諭2種免許 社会福祉主事 Word検定、Excel検定 コミュニケーション検定		

中途退学の現状	<p>■中途退学者 4名 ■中退率 4.2%</p> <p>平成27年4月1日在学者 98名（平成 27年 4月入学者を含む）  平成28年2月22日在学者 95名（平成 28年 3月卒業生を含む）  ※1名が2年制課程より3年制課程に転科</p> <p>■中途退学の主な理由  健康状態による就学継続困難  学習困難</p> <p>■中退防止のための取組  就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携</p>
ホームページ	URL: <a href="http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf">http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf</a>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

・実際に日々親子と関わる業務を行っている団体と連携することで、保育所・幼稚園実習ではカバーが難しい、地域での子育て支援や親子を楽しむ方法についての助言を頂く。以上により、保育所や幼稚園だけでなく、広く地域社会に貢献できる保育者を育成していく。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年2月2日現在

名 前	所 属
浅井 俊一	新潟市こども創造センター 館長
若槻 司	学校法人華光学園 長岡和光幼稚園 なごみ保育園 園長
馬場 裕子	NPO 法人 多世代交流館になニーナ 副代表
山本 ヒサ	長岡こども・医療・介護専門学校
清水 優作	長岡こども・医療・介護専門学校
黒崎 勝	長岡こども・医療・介護専門学校
村田 啓助	長岡こども・医療・介護専門学校
平澤 一郎	長岡こども・医療・介護専門学校

### (開催日時)

第1回 平成27年8月24日 11:00～11:30

第2回 平成27年10月17日 10:30～11:00

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

・現在の親子の現状を知るとともに親子への支援や参加者を楽しませる知識・技術を修得するための演習を実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習入門	1年次において、保育実習(2週間)を行う前に、実習入門科目として1日観察実習を行う。子どもとの触れ合いはもちろんのこと、保育者の動きなどを学ぶ場となる。	学校法人華光学園 長岡和光幼稚園 なごみ保育園
保育実技演習Ⅲ (演劇発表)	来館した親子を対象に演劇発表を行う。単に発表するだけではなく、集客から当日の演出など、運営面全体を学生自身で企画・実践する。	新潟市こども創造センター

## 3. 教員の研修等

### (教員の研修等の基本方針)

・教員に必要な実務上の知識、技術や指導力の向上を目的として、組織的な研修を行っていく。

## 4. 学校関係者評価

### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年2月2日現在

名 前	所 属
浅井 俊一	新潟市こども創造センター 館長
小林 葵	長岡こども・医療・介護専門学校 こども医療保育科 卒業生

### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: [http://n-heart-web.net/common/pdf/h26\\_hyouka\\_school.pdf](http://n-heart-web.net/common/pdf/h26_hyouka_school.pdf)

## 5. 情報提供

### (情報提供の方法)

URL: <http://n-heart-web.net/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども医療保育科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			就職実務Ⅱ	昨年度に実施した一般教養に関する知識の定着をはかるよう、日々小テストを行う。それと並行し、就職試験での作文・面接対策も行う。後半は、就職後の意識づけを中心に行っていく。	3年・前後	112		○		
○			保育実技演習ⅢA	1, 2年での学びを応用し、実際の保育現場で活かせるような実践的な制作活動を中心とした演習を行う。最終的には一般客を呼び込んでの発表会の運営を行う。	3年・前後	99			○	
○			保育実技演習ⅢB	1, 2年での学びを応用し、実際の保育現場で活かせるような実践的な絵本・紙芝居などの表現技術活動を中心とした演習を行う。最終的には一般客を呼び込んでの発表会の運営を行う。	3年・前後	99			○	
○			音楽Ⅲ	保育の内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助できる実践的な演奏技術、音楽的知識を学びます。	3年・前後	96			○	
	○		卒業研究指導A	これまでの学びの中で疑問に思ったこと、深めたいと思ったことを研究という形でまとめる授業である。論文の作法から調べ方までを行い、最後は発表会を行う。	3年・前後	26			○	
	○		卒業研究指導B	これまでの学びの中で疑問に思ったこと、深めたいと思ったことを研究という形でまとめる授業である。論文の作法から調べ方までを行い、最後は発表会を行う。	3年・前後	56			○	
	○		Excel 演習	保育現場で求められる基本的なExcel操作を学ぶ。Excel 検定3級の合格を目指す。	3年・前	32			○	
	○		こどもの保健検定	2年次までのこどもの保健の授業内容を踏まえて、より実践的な保健の知識を得る。「こどもの保健検定3級」の合格を目指す。	3年・前	14			○	

○		紙芝居 実技演習	舞台と拍子木を用いた、伝統的な紙芝居の技法を学ぶことを目的とする。多くの紙芝居に触れることはもちろんのこと、学生自身が演じる中で、自ら紙芝居技法を獲得していく。	3 年・ 前後	30			○	
○		保育士のため のセルフケア	保育士として働く中では、腰痛などの身体的に問題が起きたり、精神的にも疲弊していることが問題となっている。労働現場で自己を守るための方法を学んでいく。	3 年・ 前後	30			○	
○		食生活 アドバイザー	子どもの食育を指導できるような知識を身に付けることを目的とする。食生活アドバイザー検定3級の取得を目指す。	3 年・ 前	24			○	
○		保育士 専門試験対策	公立保育所での勤務を目指す者向けの公務員試験対策である。試験の中でも保育士専門試験の対策を行う。授業は一方的な受け身ではなく、学生自身が学べるように課題も多く設定されている。	3 年・ 前	51			○	
○		公務員試験 対策	公立保育所での勤務を目指す者向けの公務員試験対策である。試験の中でも一般教養試験の対策を行う。学生自身が積極的に学べるように課題も多く設定されている。	3 年・ 前	51		○		
○		保育内容総論	保育内容5領域全般に渡る内容を学ぶ。特に3年次に設けられているため、これまでの実習の中での実践などを踏まえて、理論と実践の結びつきを目指しての授業を行う。	3 年・ 後	14		○		
○		保育・教職 実践演習 (幼稚園)	既に学んできた教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、自己の課題を自覚し、その克服と習得に努めます。さらに、教職生活を円滑にスタートできるよう、学校現場の視点を取り入れながら、保育者としての使命感・責任感のある実践的指導力の獲得を図ります。	3 年・ 後	14			○	
○		教育実習 (2 回目)	保育者の指導のもと、現実の幼稚園現場における幼児との直接的なかかわりを通じて、保育者となるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。同時に保育者としての使命感、さまざまな保育を通じた実践的指導力の基礎を体得し、保育の実践上の課題を解決していく上で必要とされる資質・能力を培う。	3 年・ 前	70				

○		保育実習Ⅰ (保育所)	児童福祉施設の生活に参加し、施設の内容、機能等を学ぶ。また、実践現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこどもの最善の利益の具体化について学ぶことにより、こどもと保育士の役割についての理解を深める。	3年・前	70				○
○		保育実習Ⅱ (保育所)	実際に指導案を作成し、クラスを担当して保育所保育の目標、内容、方法、評価について具体的に学ぶ。また、地域社会、保護者、保育者集団におけるコミュニケーションの方法と実際についても学習する。これらの学びをもとに、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させ、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。	3年・後	70				○
○		保育実習Ⅲ (施設)	実際に指導案を作成し、クラスを担当して保育所保育の目標、内容、方法、評価について具体的に学ぶ。また、地域社会、保護者、保育者集団におけるコミュニケーションの方法と実際についても学習する。これらの学びをもとに、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させ、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。	3年・後	70				○
○		保育・教職実践演習 (幼稚園)Ⅱ	既に学んできた教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、自己の課題を自覚し、その克服と習得に努めます。さらに、教職生活を円滑にスタートできるよう、学校現場の視点を取り入れながら、保育者としての使命感・責任感のある実践的指導力の獲得を図ります。	3年・後	14			○	
○		卒業研究	3年間の学びの集大成としての、卒業研究の発表を行う。与えられたものを解くだけではなく、自ら課題を発見して、その課題に積極的に取り組むことを目的としている。	3年・後	14			○	
○		保育実技演習ⅡA	実際の保育現場で活かせるような応用的な制作活動を中心とした演習を行う。	2年・前後	73			○	
○		保育実技演習ⅡB	実際の保育現場で活かせるような応用的な絵本・紙芝居などの表現技術活動を中心とした演習を行う。	2年・前後	73			○	

○		保育基礎演習Ⅱ	保育に関する課題図書を指定し、授業内ではディスカッションを行うことで、保育者として求められる知識の他に「読み」「書き」「話す」力の育成を図る。最終的には自ら課題を発見できるように授業を展開する。	2年・前後	29			○	
○		音楽Ⅱ	保育の内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助できる応用的な演奏技術、音楽的知識を学びます。	2年・前後	96			○	
○		就職実務Ⅰ	就職活動を始めるにあたっての動機づけを行う。また、就職試験対策として、面接指導、作文指導、一般教養試験対策指導などを行っていく。	2年・前後	88		○		
○		基礎介護技術	保育実習Ⅰ（施設）にて、障害児者施設に行った場合に必要となる基本的な介護技術を修得する。具体的には車椅子の使い方や着替えの援助、食事介助の方法などである。	2年・前	10				○
	○	こどもと体育Ⅰ	こどもの心身の発達特性を十分に理解し、教育者・保育者として必要な体育に関する基礎的知識及び技能を学習し、幼児の健全な身体発達を促すための指導方法を学ぶ。	2年・前	14		○		
	○	こどもの保健Ⅰ	生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を認識する。具体的な内容として子どもの身体発育・生理機能・運動機能並びに精神機能の発達について理解を深める。	2年・前	28		○		
	○	こどもの保健Ⅱ	集団における健全な成長・発育を促すために必要な環境・衛生管理・安全管理について理解する。また、感染症を中心とした疾病について、その予防法および適切な対応について理解を深める。	2年・前	28		○		
	○	教育課程論	「何を教えるか」という教育の中身や内容を組織立てたものを教育課程と呼びます。教育課程は学習者の実態や社会的状況に合わせて、各機関で編成されるものです。そこでこの授業では教育課程の原理や制度、歴史的変遷を学びつつ、教育課程を編成する力を身につけ、見通しをもった教育・保育を実践する力を身につけます。	2年・前	28		○		
	○	こどもと言語表現	子どもの表現技術の中でも、言葉での表現に焦点を当てる。子どもが言葉を獲得するプロセスから、言葉に関する様々な問題から、絵本や紙芝居についての理解を深めていく。	2年・前	14		○		

○		教育方法論	教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を修得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する方法を学ぶ	2年・後	28		○		
○		教職論	教職の意義等に関する科目として、教職の意義及び教員の職務内容（研修、服装及び身分保障等を含む）、進路選択に資する各種の機会の提供等を行うことで、教職への志向性を高める。	2年・後	28		○		
○		教育相談	単なる知識の吸収ではなく、実際に教育現場で活用できるような技術や心構えを身につける。この授業では、教育相談およびカウンセリングの意義、目的、理論背景、技法などについての理解を十分に深めた上で、発達年齢によって異なる、典型的な心理的問題についての理解と、心理的援助の実際について、具体的に検討する。	2年・前	28		○		
○		こどもの食と栄養Ⅰ	健全な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発達・発育と食生活の関連について理解を深める。食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。	2年・前	14			○	
○		障害児保育Ⅰ	近年、保育所・幼稚園においても統合保育が盛んとなってきたため、障害児系児童福祉施設で働く保育士だけでなく、すべての保育者が障害児に対する支援を学ぶ必要がある。必要な知識について教授する。	2年・前	14			○	
○		乳幼児保育Ⅰ	乳幼児保育を子どもの発達の視点からとらえ、その現状と課題について学ぶ。絵本などの言語文化財を使い、乳幼児保育の実践を通じよりよい保育をともに考える。	2年・後	14			○	
○		教育実習（1回目）	保育者の指導のもと、現実の幼稚園現場における幼児との直接的なかかわりを通じて、保育者となるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。前半では特に部分実習を行うことが中心となる。	2年・前	70				○
○		保育実習Ⅰ（施設）	保育所の生活に参加し、保育所の内容、機能等を学ぶ。また、実践現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこどもの最善の利益の具体化について学ぶことにより、こどもと保育士の役割についての理解を深める。	2年・後	70				○



○		教育実習指導	幼稚園での実習を行うに当たっての、基本的な心構え、実習の流れ、実習簿の記入方法、指導案作成方法などを学ぶ。	2年・前	10			○	
○		相談援助	本科目は社会福祉士の身につけるスキルである「援助技術(相談援助)」を習得することを目的としている。この技術の実践例としては、保護者との面談場面が主となる。入園時の保護者面接・子育て支援相談・虐待の予防や早期発見・障害児を持つ親への支援など応用場面は幅広い。	2年・前	14			○	
○		こどもと体育Ⅱ	運動・スポーツの教育的可能性、こどもの発達、体育科のこれまでの変遷について理解を深める。さらに模擬授業を行い、計画・実践・評価することを通して実践的力を高める。	2年・前	14			○	
○		こどもの食と栄養Ⅱ	健全な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発達・発育と食生活の関連について理解を深める。食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。	2年・前	14			○	
○		障害児保育Ⅱ	近年、保育所・幼稚園においても統合保育が盛んとなってきたため、障害児系児童福祉施設で働く保育士だけでなく、すべての保育者が障害児に対する支援を学ぶ必要がある。必要な知識について教授する。	2年・前	14			○	
○		こどもと健康	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「健康」は、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目標としている。これらの内容について学習し、保育者が行う援助や関わり、子どもの発達援助に必要な知識と技能を習得する。	2年・前	14			○	
○		こどもと環境	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」から、自然・人的・物的・社会的環境の持つ役割や意味を理解するとともに、子どもの発達と豊かな環境のかかわりについて実践的な学びの習得を図ります。	2年・前	14			○	
○		社会的養護内容	本講義では、事例を通して社会的養護・施設養護の実際について理解を深めると共に、支援のあり方・計画について検討する。また、権利擁護、自立支援についてより具体的に検討し理解を深めると共に、被措置児童等虐待(施設内虐待)の問題などから教育者・保育者の倫理についても学ぶ。	2年・前	14			○	

	○		こどもの保健Ⅲ	小児保健の意義を理解し、講義で得た知識を基に、演習形式により根拠ある知識を深める。	2年・後	14			○	
	○		保育相談支援	こどもの福祉に関わる保育士として、こどもの健全な保育に関する様々な相談に的確な対応ができるための知識と技術を習得する。具体的にはこども、保護者、地域などに対して、個々のこどもたちの権利を守り健やかな発育に必要な社会資源と情報を提供し、同時に相談場面に必要な技術と倫理について学ぶ。	2年・後	14			○	
	○		乳幼児保育Ⅱ	乳幼児保育を子どもの発達の視点からとらえ、その現状と課題について学ぶ。絵本などの言語文化財を使い、乳幼児保育の実践を通じよりよい保育をともに考える。	2年・後	14			○	
	○		音楽Ⅰ	保育の内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助できる基本的な演奏技術、音楽的知識を学びます。	1年・前後	112			○	
	○		保育実技演習ⅠA	実際の保育現場で活かせるような基本的な制作活動を中心とした演習を行う。	1年・前後	63			○	
	○		保育実技演習ⅠB	実際の保育現場で活かせるような基本的な絵本・紙芝居などの表現技術活動を中心とした演習を行う。	1年・前後	63		○		
	○		スタディスキル演習Ⅰ	課題図書がある場合は文章読解力、調査する必要がある場合は情報収集能力、そしてそれらを使いつつレポート課題を執筆する文章構成力が必要となる。その際に役立つように、この授業では手順を踏みながら能力を身につけ、今後のレポート執筆につながるようにしていく。	1年・前後	36			○	
	○		保育基礎演習Ⅰ	保育に関する課題図書を指定し、授業内ではディスカッションを行うことで、保育者として求められる知識の他に「読み」「書き」「話す」力の育成を図る。	1年・前後	30			○	
	○		保育実習入門	本実習を始めるにあたっての導入実習して、1日観察実習を行う。実習先は提携先の企業により実施する。事前に実習における心がけやマナーを指導し、実習後はこの後にある本実習に向けての指導を行う。	1年・前後	40				○

○		保育基礎実習	保育所での観察実習を中心に「保育所の役割」「保育士の職務について」「子どもの実態」を学ぶ。合わせて実際の保育にも参加し、子どもと触れ合ったり、読み聞かせや手遊びなどの実技を実践する。	1年・後	70				○
	○	レポート指導	レポート作成が困難な学生のための科目である。レポートの書き方などは他科目で行っているため、実際にレポートを書いてみて、添削等を行い、自分でレポートがしっかり書けるようになることを目的とする。	1年・前後	64			○	
	○	憲法	憲法を学習することは、国民・個人の生命・自由・幸福の追求を学ぶことであり、より良き生活条件(well-being)、人間の尊厳を実現することである。すなわち、「人間」の幸福実現のために「国家」の存在の妥当性を確認する。	1年・前	28		○		
	○	情報リテラシーと処理技術	情報技術を問題解決のために、自分で考え活用できるようになるために、コンピュータのしくみ、動作原理など基本的な考え方を学ぶ。また、情報によって社会基盤や生活環境がどのように変わってきたのか、今後社会がどのように変わっていこうとしているのかなどについて理解する。	1年・前	28			○	
	○	英語コミュニケーション	小学校における外国語活動の導入も念頭に入れ、英語の基本的知識の復習に始まり、英語絵本の読み聞かせができるような英語力の育成を目指す。	1年・前	28		○		
	○	児童家庭福祉	世の中には普通に過ごせない子どもがたくさんいる。虐待を受けている子ども、両親がいない子ども、障害を持っている子ども。そうした子どもが幸せに過ごしていくための方法や制度・施設などを学ぶ。	1年・前	28		○		
	○	教育原理	この授業では教育者としての基本的な基盤を整えると同時に、長い歴史や制度を学ぶことで様々な教育の形を学ぶ。そして今後教育者として社会状況や課題に対応した教育・保育システムを新しく構築する際に活かすことができるような力を身につける。	1年・前	28		○		
	○	発達心理学	保育における心理学の意義、発達の原理、認知機能や愛着の発達に関する諸理論について学ぶ。さらに愛着理論と併せて日本文化において重要な“甘え”についても学習し、保育実践のなかで多角的視点から子どもを理解し、見立てるための視点を養う。	1年・前	28		○		

○	教育心理学	学習(学び)、動機づけ、記憶のメカニズムに関する基礎的な心理学の理論を学ぶ。特に保育実践における汎用性が高いと思われる学習理論と動機づけについては、具体的な場面を挙げながら重点的に学習する。	1年・前	14			○	
○	こどもと造形 I	保育指導法「表現」のねらいと内容などにもとづいた保育の基本的なことが理解できることを目標とする。乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。	1年・前	28			○	
○	社会福祉論	本講義では、社会福祉の理念や制度の歴史的な変遷を整理し、社会福祉の実施体制について理解する。その上で、現代社会における課題をもとに、これからの社会福祉と私たちの生活について考える。	1年・後	28			○	
○	社会的養護	本講義では、家庭養護と共に社会的養護に焦点を当て、その意義や歴史、法制度、実施体系などを中心に基礎的知識を習得する。また、こどもの権利擁護、自立支援のあり方についても考える。	1年・後	28			○	
○	家庭支援論	本講義では、家族とは何かという基本的な知識や家族をとりまく社会状況を踏まえた上で、現代の子育て家庭に必要な社会的支援のあり方や具体的な方策、家庭支援者としての保育者の役割について考える。	1年・後	28			○	
○	こども学概論	教育の二極化の顕著な現象は、日本の教育の将来に不安を漂わせると言えよう。今改めてこどもについて社会はどう取り組むべきか、問われている。臨床教育の視点から、一人一人を生かす教育を探り、知能論からみた学習適応について考察する。	1年・後	28			○	
○	健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題や、食生活・身体活動・睡眠など健康に関わりの深い生活習慣が身体に及ぼす影響について解説する。また、個人や社会全体の健康に関する問題解決能力の修得を目指す。	1年・後	28			○	
○	スポーツ (実技)	各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図るとともにスポーツをすることの楽しさを味わう。自己の体力・健康の保持増進を図るとともに各スポーツの指導法を学ぶ。	1年・後	28				○

○		こどもと造形表現Ⅰ	こどもは発達と共に感性が広がり、無限の可能性を秘めており、いろいろなことに興味を持ちチャレンジしていく。この講義では上記のことを踏まえ、幼稚園、保育所での表現におけるこどもの発達と関連して教材研究を中心に製作指導を行う。	1年・後	24		○		
○		保育原理	社会的集団保育の場としての保育所保育の在り方についての基本的な認識を得ることを目指す。保育所保育指針に基づいた保育の考え方を実践的に示しながら、保育の歴史の概略、保育の内容と方法の基本、現代社会における保育の課題等について論じる。	1年・後	28		○		
○		保育実習指導Ⅰ	実習の目的と意義、実習の過程や心構え、保育所実習、施設実習などについての理論を学ぶ。併せて、日誌の書き方、指導案の書き方についても学ぶ	1年・後	14		○		
○		こどもと造形表現Ⅱ	こどもの発達や表現を視野に入れ、美術・造形の表現技法などを理論と実技の両面から実践的に研究する。単に製作するだけでなく、こどもの発達や思考をイメージしながら、保育所・幼稚園で行われている教材を取り上げ、教材の研究や指導の仕方を考えるような講義をする。	1年・後	14			○	
○		教育心理学Ⅱ	教育や人の発達について心理学的に理解していく学問である。ここで学んだことを活かすために、教育における人の心の動きを学ぶことをねらいとする。	1年・後	14			○	
○		こどもと造形Ⅱ	幼児造形の指導援助者として形態や色彩などの造形の基本的な理論を学ぶ。それらをふ前ながらテーマをもとに「描く」「つくる」など製作の実際を学び、合わせて幼児が実際に使う教材、用具や描画材について体験的に理解する。	1年・後	14			○	
○		こどもと人間関係	こどもの自立心を育て、人とかかわる力を養うためには、どのような援助が有効なのかを具体的に検討する。また、人間関係の発達の側面だけでなく、幼稚園教育要領や保育所保育指針の変遷をたどりながら幼児教育の今日的課題についても考える。	1年・後	14			○	
○		こどもと言葉	絵本の読み聞かせ、紙芝居の基本的な演技方、パネルシアターの技法・演技方、他にも様々なお話や「言葉」の領域に関わる技術を、年齢や場面、規模に応じて選書・選定・作成できるようになるための実演と講義。	1年・後	14			○	

○		こどもとリズム表現Ⅰ	保育内容（表現）に関する内容のうち、音楽を使つての表現方法を学ぶ。具体的にはリトミックなど、実際に身体を動かす表現方法による、保育内容の会得を目的とする。	1年・後	14			○	
○		こどもと音楽表現第1教程	保育内容（表現）に関する内容のうち、ピアノの演奏技術に関する内容を取り扱う。第1教程では、ピアノの基本的スキルの獲得を目指していく。	1年・後	10			○	
合計				64科目	単位時間（		2747単位）		

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
長岡子ども・医療・ 介護専門学校	平成25年1月8日	山本ヒサ	〒940-0047 新潟県長岡市弓町1-8-34 (電話)0258-35-1600			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 新潟総合学院	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話)025-210-8565			
目 的	本校は学校教育法に基づき、商業実務専門課程、教育・社会福祉専門課程を設置し、各分野の専門知識・技術を教授し、高度な専門知識・技術及び倫理観を有する人材を育成することをもって、社会に貢献し得る人材を輩出することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	子ども保育幼稚園科	2年(昼)	2089時間 (又は単位)	平成26年文部科学 省告示第6号	-
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	733時間 (又は単位)	1078時間 (又は単位)	0時間 (又は単位)	250時間 (又は単位)	28時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	18人	4人	20人	24人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有)無 ■成績評価の基準・方法について 基準：A～Dの4段階 方法：レポート、期末試験、出席率、授業への取り組み状況などに基づく。		
長期休み	■学年始め：4月7日 ■夏 季：7月27日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：3月19日～4月14日		卒業・進級条件	出席率90%以上 成績評価C評価以上 卒業基準検定を全て取得		
生徒指導	■クラス担任制(有)無 ■長期欠席者への指導等の対応 カウンセリング等の実施にて対応		課外活動	■課外活動の種類 長岡市イベントのボランティア ■サークル活動(有)無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 保育所、幼稚園、児童福祉施設他 ■就職率 <sup>※1</sup> 86% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> 82% ■その他(任意)保育以外へ進路変更 (平成27年度卒業者に関する平成28年2月時点の情報)		主な資格・検定	幼稚園教諭2種免許 保育士(卒業後の申請により取得) Word検定 コミュニケーション検定		

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 5.6%</p> <p>平成27年4月1日在学者 19名（平成 27年 4月入学者を含む） 平成28年2月22日在学者 18名（平成 28年 3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 体調不良のため</p> <p>■中退防止のための取組 就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: <a href="http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf">http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf</a></p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）



## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

・実際に日々親子と関わる業務を行っている団体と連携することで、保育所・幼稚園実習ではカバーが難しい、地域での子育て支援や親子を楽しませる方法についての助言を頂く。以上により、保育所や幼稚園だけでなく、広く地域社会に貢献できる保育者を育成していく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年2月22日現在

名 前	所 属
浅井 俊一	新潟市こども創造センター 館長
若槻 司	学校法人華光学園 長岡和光幼稚園 なごみ保育園 園長
馬場 裕子	NPO 法人 他世代交流館になニーナ
山本 ヒサ	長岡こども・医療・介護専門学校
清水 優作	長岡こども・医療・介護専門学校
黒崎 勝	長岡こども・医療・介護専門学校
村田 啓助	長岡こども・医療・介護専門学校
平澤 一郎	長岡こども・医療・介護専門学校

(開催日時)

第1回 平成27年8月24日 11:30~12:00

第2回 平成27年10月17日 11:00~11:30

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

・現在の親子の現状を知るとともに親子への支援や参加者を楽しませる知識・技術を修得するための演習を実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習入門	1年次において、保育実習(2週間)を行う前に、実習入門科目として1日観察実習を行う。子どもとの触れ合いはもちろんのこと、保育者の動きなどを学ぶ場となる。	学校法人華光学園 長岡和光幼稚園 なごみ保育園

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

・教員に必要な実務上の知識、技術や指導力の向上を目的として、組織的な研修を行っていく。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年2月22日現在

名 前	所 属
浅井 俊一	新潟市こども創造センター 館長
小林 葵	長岡こども・医療・介護専門学校 こども医療保育科 卒業生

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: [http://n-heart-web.net/common/pdf/h26\\_hyouka\\_school.pdf](http://n-heart-web.net/common/pdf/h26_hyouka_school.pdf)

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://n-heart-web.net/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども保育幼稚園科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			保育実技演習 I A	制作を中心に季節のうたや体操などを行う。保育者になる為に身につけてほしい実技を学ぶ。授業では「作る」だけではなく「発表」の場を設け、人前で話すこと、演じること、表現することの力をつけることもふくまれている。	1年・前後	63		○		
○			保育実技演習 I B	手遊び・読み聞かせ・パネルシアター・集団遊び等保育者になるために身につけてほしい実技を学ぶ。本授業では知識を得るだけではなく「発表」の場を設け、人前で「演じること」「表現すること」の力も身につけられるようにしていく。	1年・前後	63		○		
○			スタディスキル演習 I	課題図書がある場合は文章読解力、調査する必要がある情報収集能力、そしてそれらを使いつつレポート課題を執筆する文章構成能力が必要となる。その際に役立つように、この授業では手順を踏みながら能力を身につけ、今後のレポート執筆につながるようにしていく。	1年・前後	36		○		
○			保育基礎演習 I	課題図書を提示し、毎授業では指定された箇所を読み込んでくることで、授業当日はその内容についてディスカッションを行う。	1年・前後	30		○		
○			保育実習入門	本実習を始めるにあたっての導入実習して、1日観察実習を行う。実習先は提携先の企業により実施する。事前に実習における心がけやマナーを指導し、実習後はこの後にある本実習に向けての指導を行う。	1年・前後	40				○
○			保育基礎実習	1年次での最初の実習のため、主に保育所での観察実習を行い、保育所での保育士の業務内容について学ぶ。	1年・後	70				○
○			就職実務 I	社会人としての一般常識を身につける。また、基本的な文章構成能力を身につけ、資本的な作文を書く能力を身につける。	1年・後	98		○		

○		音楽 I	保育の内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助できる基本的な演奏技術、音楽的知識を学びます。	1年・前後	112			○	
	○	レポート指導	レポート作成が困難な学生のための科目である。レポートの書き方などは他科目で行っているため、実際にレポートを書いてみて、添削等を行い、自分でレポートがしっかり書けるようになることを目的とする。	1年・前後	64			○	
	○	試験直前対策	単位認定試験に挑むにあたり、直前の対策を行う。一方的な講義ではなく、学生が考え、書く作業をサポートするものである。	1年・前後	30			○	
	○	憲法	憲法を学習することは、国民・個人の生命・自由・幸福の追求を学ぶことであり、より良き生活条件(well-being)、人間の尊厳を実現することである。すなわち、「人間」の幸福実現のために「国家」の存在の妥当性を確認する。	1年・前	28			○	
	○	情報処理技術	情報技術を問題解決のために、自分で考え活用できるようになるために、コンピュータのしくみ、動作原理など基本的な考え方を学ぶ。また、情報によって社会基盤や生活環境がどのように変わってきたのか、今後社会がどのように変わっていこうとしているのかなどについて理解する。	1年・前	28			○	
	○	英語コミュニケーション	小学校における外国語活動の導入も念頭に入れ、英語の基本的知識の復習に始まり、英語絵本の読み聞かせができるような英語力の育成を目指す。	1年・前	28			○	
	○	児童家庭福祉	世の中には普通に過ごせない子どもがたくさんいる。虐待を受けている子ども、両親がいない子ども、障害を持っている子ども。そうした子どもが幸せに過ごしていくための方法や制度・施設などを学ぶ。	1年・前	28			○	
	○	教育原理	この授業では教育者としての基本的な基盤を整えると同時に、長い歴史や制度を学ぶことで様々な教育の形を学ぶ。そして今後教育者として社会状況や課題に対応した教育・保育システムを新しく構築する際に活かすことができるような力を身につける。	1年・前	28			○	

○		発達心理学	保育における心理学の意義、発達の原理、認知機能や愛着の発達に関する諸理論について学ぶ。さらに愛着理論と併せて日本文化において重要な“甘え”についても学習し、保育実践のなかで多角的視点から子どもを理解し、見立てるための視点を養う。	1年・前	28		○		
○		教育心理学	学習(学び)、動機づけ、記憶のメカニズムに関する基礎的な心理学の理論を学ぶ。特に保育実践における汎用性が高いと思われる学習理論と動機づけについては、具体的な場面を挙げながら重点的に学習する。	1年・前	14			○	
○		こどもと造形 I	保育指導法「表現」のねらいと内容などにもとづいた保育の基本的なことが理解できることを目標とする。乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。	1年・前	28		○		
○		社会福祉論	本講義では、社会福祉の理念や制度の歴史的な変遷を整理し、社会福祉の実施体制について理解する。その上で、現代社会における課題をもとに、これからの社会福祉と私たちの生活について考える。	1年・後	28		○		
○		社会的養護	本講義では、家庭養護と共に社会的養護に焦点を当て、その意義や歴史、法制度、実施体系などを中心に基礎的知識を習得する。また、こどもの権利擁護、自立支援のあり方についても考える。	1年・後	28		○		
○		家庭支援論	本講義では、家族とは何かという基本的な知識や家族をとりまく社会状況を踏まえた上で、現代の子育て家庭に必要なとされる社会的支援のあり方や具体的な方策、家庭支援者としての保育者の役割について考える。	1年・後	28		○		
○		こども学概論	教育の二極化の顕著な現象は、日本の教育の将来に不安を漂わせると言えよう。今改めてこどもについて社会はどう取り組むべきか、問われている。臨床教育の視点から、一人一人を生かす教育を探り、知能論からみた学習適応について考察する。	1年・後	28		○		
○		健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題や、食生活・身体活動・睡眠など健康に関わりの深い生活習慣が身体に及ぼす影響について解説する。また、個人や社会全体の健康に関する問題解決能力の修得を目指す。	1年・後	28		○		

○	ス ポ ー ツ (実技)	各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図るとともにスポーツをすることの楽しさを味わう。自己の体力・健康の保持増進を図るとともに各スポーツの指導法を学ぶ。	1年・後	28				○
○	こどもと造形表現Ⅰ	こどもは発達と共に感性が広がり、無限の可能性を秘めており、いろいろなことに興味を持ちチャレンジしていく。この講義では上記のことを踏まえ、幼稚園、保育所での表現におけるこどもの発達と関連して教材研究を中心に製作指導を行う。	1年・後	24		○		
○	保育原理	社会的集団保育の場としての保育所保育の在り方についての基本的な認識を得ることを目指す。保育所保育指針に基づいた保育の考え方を実践的に示しながら、保育の歴史の概略、保育の内容と方法の基本、現代社会における保育の課題等について論じる。	1年・後	28		○		
○	教育心理学Ⅱ	教育や人の発達について心理学的に理解していく学問である。ここで学んだことを活かすために、教育における人の心の動きを学ぶことをねらいとする。	1年・後	15			○	
○	こどもと造形Ⅱ	幼児造形の指導援助者として形態や色彩などの造形の基本的な理論を学ぶ。それらをふ前ながらテーマをもとに「描く」「つくる」など製作の実際を学び、合わせて幼児が実際に使う教材、用具や描画材について体験的に理解する。	1年・後	15			○	
○	こどもと人間関係	こどもの自立心を育て、人とかかわる力を養うためには、どのような援助が有効なのかを具体的に検討する。また、人間関係の発達の側面だけでなく、幼稚園教育要領や保育所保育指針の変遷をたどりながら幼児教育の今日的課題についても考える。	1年・後	15			○	
○	こどもと言葉	絵本の読み聞かせ、紙芝居の基本的な演技方、パネルシアターの技法・演技方、他にも様々なお話や「言葉」の領域に関わる技術を、年齢や場面、規模に応じて選書・選定・作成できるようになるための実演と講義。	1年・後	15			○	
○	こどもとリズム表現Ⅰ	保育内容（表現）に関する内容のうち、音楽を使つての表現方法を学ぶ。具体的にはリトミックなど、実際に身体を動かす表現方法による、保育内容の会得を目的とする。	1年・後	15			○	

	○		こどもと音楽表現第1教程	ピアノという楽器の基礎的な技術を身につけることによってこども達との豊かな音楽表現へ結びつくようにピアノ実技指導を行う。第一段階では、各学生のレベルに合った教材を使い、基礎的なピアノの表現方法を習得する。第二段階ではコードを用いた伴奏づけや弾き歌いを習得する。	1年・後	10			○	
	○		こどもと造形表現Ⅱ	こどもの発達や表現を視野に入れ、美術・造形の表現技法などを理論と実技の両面から実践的に研究する。単に製作するだけでなく、こどもの発達や思考をイメージしながら、保育所・幼稚園で行われている教材を取り上げ、教材の研究や指導の仕方を考えるような講義をする。	1年・後	14			○	
	○		保育実技演習ⅡA	制作を中心に季節のうた・うた遊び・体操(ダンス)を学ぶ。恒例の「発表」の場では「表現力」「演じる」ことが発揮できるように努力してもらいたい。	2年・前後	73			○	
	○		保育実技演習ⅡB	手遊び・読み聞かせ・パネルシアター・集団遊び等1年次に学んだ実技をベースに応用的なものを学ぶ。新たな実技分野においては基礎を学び演じてみる。「発表」の場では、観ている人を楽しませようとする視点を持ち、さらに「表現力」「アレンジ力」が上げられるよう各自の努力を望む。	2年・前後	73			○	
	○		保育基礎演習Ⅱ	保育に関する課題図書を指定し、授業内ではディスカッションを行うことで、保育者として求められる知識の他に「読み」「書き」「話す」力の育成を図る。最終的には自ら課題を発見できるように授業を展開する。	2年・前後	29			○	
	○		音楽Ⅱ	保育の内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助できる応用的な演奏技術、音楽的知識を学びます。	2年・前後	96			○	
	○		就職実務Ⅱ	昨年度に実施した一般教養に関する知識の定着をはかるよう、日々小テストを行う。それと並行し、就職試験での作文・面接対策も行う。後半は、就職後の意識づけを中心に行っていく。	2年・前後	112		○		
	○		卒業研究指導	これまでの学びの中で疑問に思ったこと、深めたいと思ったことを研究という形でまとめる授業である。論文の作法から調べ方までを行い、最後は発表会を行う。	2年・前後	60			○	

○		こどもと体育 I	こどもの心身の発達特性を十分に理解し、教育者・保育者として必要な体育に関する基礎的知識及び技能を学習し、幼児の健全な身体発達を促すための指導方法を学ぶ。	2年・前	14		○		
○		こどもの保健 I	生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を認識する。具体的な内容として子どもの身体発育・生理機能・運動機能並びに精神機能の発達について理解を深める。	2年・前	28		○		
○		こどもの保健 II	集団における健全な成長・発育を促すために必要な環境・衛生管理・安全管理について理解する。また、感染症を中心とした疾病について、その予防法および適切な対応について理解を深める。	2年・前	28		○		
○		教育課程論	「何を教えるか」という教育の中身や内容を組織立てたものを教育課程と呼びます。教育課程は学習者の実態や社会的状況に合わせて、各機関で編成されるものです。そこでこの授業では教育課程の原理や制度、歴史的変遷を学びつつ、教育課程を編成する力を身につけ、見通しをもった教育・保育を実践する力を身につけます。	2年・前	28		○		
○		こどもと言語表現	子どもの表現技術の中でも、言葉での表現に焦点を当てる。子どもが言葉を獲得するプロセスから、言葉に関する様々な問題から、絵本や紙芝居についての理解を深めていく。	2年・前	14		○		
○		教育方法論	教育・保育実践には様々な方法があり、実際に園によって多様な方法が用いられている。本授業ではまず、そのような多様な方法論について歴史を紐解く形で理解し基礎を築く。その後に幼児教育における指導法を実践事例を踏まえつつ理解する。そして知識量の増加だけでなく、演習を通して実践に結びつく力を養成する。	2年・後	28		○		
○		教職論	教職の意義等に関する科目として、教職の意義及び教員の職務内容(研修、服装及び身分保障等を含む)、進路選択に資する各種の機会の提供等を行うことで、教職への志向性を高める。	2年・後	28		○		

○	教育相談	単なる知識の吸収ではなく、実際に教育現場で活用できるような技術や心構えを身につける。この授業では、教育相談およびカウンセリングの意義、目的、理論背景、技法などについての理解を十分に深めた上で、発達年齢によって異なる、典型的な心理的問題についての理解と、心理的援助の実際について、具体的に検討する。	2年・前	28		○		
○	こどもの食と栄養Ⅰ	健全な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発達・発育と食生活の関連について理解を深める。食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。	2年・前	15			○	
○	障害児保育Ⅰ	近年、保育所・幼稚園においても統合保育が盛んとなってきたため、障害児系児童福祉施設で働く保育士だけでなく、すべての保育者が障害児に対する支援を学ぶ必要がある。必要な知識について教授する。	2年・前	15			○	
○	乳幼児保育Ⅰ	乳幼児保育を子どもの発達の視点からとらえ、その現状と課題について学ぶ。絵本などの言語文化財を使い、乳幼児保育の実践を通じよりよい保育をともに考える。	2年・前	15			○	
○	教育実習(1回目)	保育者の指導のもと、現実の幼稚園現場における幼児との直接的なかかわりを通じて、保育者となるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。前半では特に部分実習を行うことが中心となる。	2年・前	70				○
○	教育実習(2回目)	保育者の指導のもと、現実の幼稚園現場における幼児との直接的なかかわりを通じて、保育者となるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。同時に保育者としての使命感、さまざまな保育を通じた実践的指導力の基礎を体得し、保育の実践上の課題を解決していく上で必要とされる資質・能力を培う。	2年・後	70				○
○	保育内容総論	保育所保育指針における保育内容の構造を実践的に理解することを基本として、保育内容の歴史的変遷、こどもの発達特性と保育実践、一人一人に寄り添う保育内容の展開、多様なニーズに応える多様な保育の展開の方法について学ぶ。	2年・後	15		○		



○	保育・教職実践演習(幼稚園)	既に学んできた教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、自己の課題を自覚し、その克服と習得に努めます。さらに、教職生活を円滑にスタートできるよう、学校現場の視点を取り入れながら、保育者としての使命感・責任感のある実践的指導力の獲得を図ります。	2年・後	15			○	
○	教育実習指導	教育実習を行うことを前提として、これまで学修した関連科目の内容を踏まえ、実習生として必要な心得や行動、いろいろな保育場面での指導法や学級経営のあり方などについて理解を深めるとともに、保育者としての責務を学ぶ。	2年・前	10			○	
○	相談援助	本科目は社会福祉士の身につけるスキルである「援助技術(相談援助)」を習得することを目的としている。この技術の実践例としては、保護者との面談場面が主となる。入園時の保護者面接・子育て支援相談・虐待の予防や早期発見・障害児を持つ親への支援など応用場面は幅広い。	2年・前	14			○	
○	こどもと体育Ⅱ	運動・スポーツの教育的可能性、こどもの発達、体育科のこれまでの変遷について理解を深める。さらに模擬授業を行い、計画・実践・評価することを通して実践的力を高める。	2年・前	14			○	
○	こどもの食と栄養Ⅱ	健全な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの発達・発育と食生活の関連について理解を深める。食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。	2年・前	14			○	
○	障害児保育Ⅱ	近年、保育所・幼稚園においても統合保育が盛んとなってきたため、障害児系児童福祉施設で働く保育士だけでなく、すべての保育者が障害児に対する支援を学ぶ必要がある。必要な知識について教授する。	2年・前	14			○	
○	こどもと健康	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「健康」は、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目標としている。これらの内容について学習し、保育者が行う援助や関わり、子どもの発達援助に必要な知識と技能を習得する。	2年・前	14			○	

○		こどもと環境	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」から、自然・人的・物的・社会的環境の持つ役割や意味を理解するとともに、子どもの発達と豊かな環境のかかわりについて実践的な学びの習得を図ります。	2年・前	14			○	
○		社会的養護内容	本講義では、事例を通して社会的養護・施設養護の実際について理解を深めると共に、支援のあり方・計画について検討する。また、権利擁護、自立支援についてより具体的に検討し理解を深めると共に、被措置児童等虐待(施設内虐待)の問題などから教育者・保育者の倫理についても学ぶ。	2年・前	14			○	
○		こどもの保健Ⅲ	小児保健の意義を理解し、講義で得た知識を基に、演習形式により根拠ある知識を深める。	2年・後	14			○	
○		保育相談支援	こどもの福祉に関わる保育士として、こどもの健全な保育に関する様々な相談に的確な対応ができるための知識と技術を習得する。具体的にはこども、保護者、地域などに対して、個々のこどもたちの権利を守り健やかな発育に必要な社会資源と情報を提供し、同時に相談場面に必要な技術と倫理について学ぶ。	2年・後	14			○	
○		乳幼児保育Ⅱ	乳幼児保育を子どもの発達の視点からとらえ、その現状と課題について学ぶ。絵本などの言語文化財を使い、乳幼児保育の実践を通じよりよい保育をともに考える。	2年・後	14			○	
○		保育・教職実践演習(幼稚園)Ⅱ	既に学んできた教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、自己の課題を自覚し、その克服と習得に努めます。さらに、教職生活を円滑にスタートできるよう、学校現場の視点を取り入れながら、保育者としての使命感・責任感のある実践的指導力の獲得を図ります。	2年・後	14			○	
○		卒業研究	2年間の学びの集大成としての、卒業研究の発表を行う。与えられたものを解くだけでなく、自ら課題を発見して、その課題に積極的に取り組むことを目的としている。	2年・後	14			○	
合計				67科目	単位時間 (		2089	単位)	

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
長岡こども・医療・ 介護専門学校	平成25年1月8日	山本 ヒサ	〒940-0047 新潟県長岡市弓町1-8-34 (電話) 0258-35-1600			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 新潟総合学院	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565			
目 的	本校は学校教育法に基づき、商業実務関係、教育・社会福祉関係の専門課程を設置し、各分野の専門知識・技術を教授し、高度な専門知識・技術及び倫理観を有する人材を育成することをもって、社会に貢献し得る人材を輩出することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
商業実務	商業実務専門課程	医療秘書科	2年(昼)	1,811単位時間 (又は単位)	平成26年文部科学省告示第6号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	906単位時間 (又は単位)	493単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	412単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	36人	4人	5人	9人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有)・無) ■成績評価の基準・方法について 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。	
長期休み	■学年始め：4月13日 ■夏 季：7月27日～8月16日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学 年 末：2月19日			卒業・進級条件	出席率90%以上 成績評価C評価以上 卒業基準検定を全て取得	
生徒指導	■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 カウンセリング等の実施にて対応			課外活動	■課外活動の種類 長岡市イベントのボランティア ■サークル活動 (有)・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界 病院、診療所、歯科診療所、調剤薬局 ■就職率 100.0%			主な資格・検定	医療事務管理士技能認定試験、診療報酬請求事務能力認定試験、秘書検定、Word検定、Excel検定	

中途退学の現状	<p>■中途退学者0名 ■中退率0%</p> <p>平成26年4月1日在学者37名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者37名（平成26年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由：希望職種の変更、健康状態による就学不能</p> <p>■中退防止のための取組：実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携</p>
ホームページ	URL： <a href="http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf">http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf</a>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ・学外有識者、企業、業界団体等の意見をもとに専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を実施していく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 2 月 22 日現在

名 前	所 属
亀山 智弘	汎日本海循環器病研究会 事務局長
大原 恒二	社会福祉法人 信濃川令終会 理事
山之内 勝	医療法人 誠心会 吉田病院
山本 ヒサ	長岡こども・医療・介護専門学校
清水 優作	長岡こども・医療・介護専門学校
黒崎 勝	長岡こども・医療・介護専門学校
村田 啓助	長岡こども・医療・介護専門学校
長谷川 佳奈子	長岡こども・医療・介護専門学校

(開催日時)

第1回 平成 27 年 8 月 20 日 13:00~14:00

第2回 平成 27 年 10 月 6 日 13:00~14:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

- ・業界の現状と実作業に必要な意識を修得するための授業を実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
院内マナー実習	病院受付を想定した実習施設を利用し、患者応対等の実践的な学習をする。	医療法人誠心会 吉田病院

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ・教員に必要な実務上の知識、技術や指導力の向上を目的として、組織的な研修を行っていく。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 2 月 22 日現在

名 前	所 属
山之内 勝	医療法人 誠心会 吉田病院
小林 葵	卒業生

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: [http://n-heart-web.net/common/pdf/h26\\_hyouka\\_school.pdf](http://n-heart-web.net/common/pdf/h26_hyouka_school.pdf)

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.n-heart-web.net>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 医療秘書科) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			医療事務 (医科)	診療報酬の算定に関する知識を学ぶ。	1 前	117		○		
○			医療事務 (医科) 演習	レセプト作成等の問題に取り組み、知識をさらに定着させる他、病院見学や講演会を通して医療事務職について総合的に学ぶ。	1 前	209			○	△
○			診療報酬請求事務 (医科)	診療報酬請求事務能力認定試験 (医科) 合格に必要な知識を、問題集などの演習を通して身に着ける。	1 前	180			○	
○			医療事務制度論	健康保険や労災保険制度等の、各種医療保険制度について学ぶ。	1 前	64		○		
○			基礎医学	基礎的な医学用語等について学ぶ。	1 前	32		○		
○			接遇マナー実習	社会人としての心構え、基本動作、言葉遣いをロールプレイングを通して習得する。	1 前	41				○
○			EXCEL I	表計算ソフトの操作およびビジネス書類の作成法の基礎をパソコンを使用した実習を通して習得する。	1 前	56				○
○			PCレセプト実習 I	医療事務コンピュータを使用し、レセプト作成の技術の基礎を習得する。	1 前	42				○
○			医事コンピュータ学科対策	医事コンピュータ検定に合格するための知識を身に着ける。	1 後	36		○		
○			検定対策	電卓検定試験に向けた問題演習により、合格レベルの知識を習得する。	1 後	62			○	
○			秘書論 I	秘書検定 3 級取得に必要な基礎的な知識を学ぶ。	1 後	105		○		
○			就職実務 I	就職活動に向けた準備として、自己分析、企業研究、各種書類作成、採用試験対策を学ぶ。	1 後	40		○		

○		医療事務 (歯科)	歯科助手として必要な知識を学び、歯科診療報酬の算定の方法を身に着ける。	2 前	162		○		
○		医療事務(歯 科)演習	レセプト作成等の問題に取り組み、知識をさらに定着させる。	2 前	42			○	
○		調剤事務	調剤薬局事務員として必要な知識を学び、調剤報酬の算定の方法を身に着ける。	2 前	100		○		
○		院内マナー実 習	病院受付を想定した実習施設を利用し、患者応対等の実践的な学習をする。	2 前	38				○
○		労災保険制度	労災保険の概要と労災診療費の算定の仕方について学ぶ。	2 前	38		○		
○		EXCELⅡ	表計算ソフトの操作およびビジネス書類の作成法の応用をパソコンを使用した実習を通して習得する。	2 後	66				○
○		WORD	文書作成ソフトの操作およびビジネス文書の作成法の基礎をパソコンを使用した実習を通して習得する。	2 後	131				○
○		ビジネス文書	ビジネスの現場で用いられる用語や文書の取り扱いの知識を学び、社内文書および社外文書の作成方法を習得する。	2 後	45		○		
○		PCレセプト 実習Ⅱ	医療事務コンピュータを使用し、レセプト作成の技術の応用を習得する。	2 後	38				○
○		就職実務Ⅱ	就職活動に向けた準備として、自己分析、企業研究、各種書類作成、採用試験対策を学ぶ。	2 後	93		○		
○		秘書論Ⅱ	秘書検定2級取得に必要な応用的な知識を学ぶ。	2 後	74		○		
合計				23 科目	1,811 単位時間				

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
長岡こども・医療・ 介護専門学校	平成25年1月8日	山本 ヒサ	〒940-0047 新潟県長岡市弓町1-8-34 (電話) 0258-35-1600			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 新潟総合学院	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565			
目 的	本校は学校教育法に基づき、商業実務関係、教育・社会福祉関係の専門課程を設置し、各分野の専門知識・技術を教授し、高度な専門知識・技術及び倫理観を有する人材を育成することをもって、社会に貢献し得る人材を輩出することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
商業実務	商業実務専門課程	医療ビジネス科	2年(昼)	1,856単位時間 (又は単位)	平成26年文部科学省告示第6号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	951単位時間 (又は単位)	493単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	412単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	46人	4人	5人	9人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有)・無) ■成績評価の基準・方法について 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。		
長期休み	■学年始め：4月13日 ■夏 季：7月27日～8月16日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学 年 末：2月19日		卒業・進級条件	出席率90%以上 成績評価C評価以上 卒業基準検定を全て取得		
生徒指導	■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 カウンセリング等の実施にて対応		課外活動	■課外活動の種類 長岡市イベントのボランティア ■サークル活動 (有)・無)		
就職等の状況	■主な就職先、業界 病院、診療所、歯科診療所、調剤薬局 ■就職率 95.5%		主な資格・検定	医療事務管理士技能認定試験、診療報酬請求事務能力認定試験、簿記検定、Word検定、Excel検定		



中途退学の現状	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0%</p> <p>平成26年4月1日在学者53名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者53名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由：希望職種の変更、健康状態による就学不能</p> <p>■中退防止のための取組：実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携</p>
ホームページ	URL: <a href="http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf">http://n-heart-web.net/common/pdf2014/basic_info.pdf</a>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ・学外有識者、企業、業界団体等の意見をもとに専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を実施していく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 2 月 22 日現在

名 前	所 属
亀山 智弘	汎日本海循環器病研究会 事務局長
大原 恒二	社会福祉法人 信濃川令終会 理事
山之内 勝	医療法人 誠心会 吉田病院
山本 ヒサ	長岡こども・医療・介護専門学校
清水 優作	長岡こども・医療・介護専門学校
黒崎 勝	長岡こども・医療・介護専門学校
村田 啓助	長岡こども・医療・介護専門学校
長谷川 佳奈子	長岡こども・医療・介護専門学校

(開催日時)

第1回 平成 27 年 8 月 20 日 13:30~14:30

第2回 平成 27 年 10 月 6 日 13:30~14:30

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

- ・業界の現状と実作業に必要な意識を修得するための授業を実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
院内マナー実習	病院受付を想定した実習施設を利用し、患者応対等の実践的な学習をする。	医療法人 誠心会 吉田病院

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ・教員に必要な実務上の知識、技術や指導力の向上を目的として、組織的な研修を行っていく。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 2 月 22 日現在

名 前	所 属
山之内 勝	医療法人 誠心会 吉田病院
小林 葵	卒業生

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:[http://n-heart-web.net/common/pdf/h26\\_hyouka\\_school.pdf](http://n-heart-web.net/common/pdf/h26_hyouka_school.pdf)

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.n-heart-web.net>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 医療ビジネス科) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			医療事務 (医科)	診療報酬の算定に関する知識を学ぶ。	1 前	117		○		
○			医療事務 (医科) 演習	レセプト作成等の問題に取り組み、知識をさらに定着させる他、病院見学や講演会を通して医療事務職について総合的に学ぶ。	1 前	209			○	△
○			診療報酬請求事務 (医科)	診療報酬請求事務能力認定試験 (医科) 合格に必要な知識を、問題集などの演習を通して身に着ける。	1 前	180			○	
○			医療事務制度論	健康保険や労災保険制度等の、各種医療保険制度について学ぶ。	1 前	64		○		
○			基礎医学	基礎的な医学用語等について学ぶ。	1 前	32		○		
○			接遇マナー実習	社会人としての心構え、基本動作、言葉遣いをロールプレイングを通して習得する。	1 前	41				○
○			EXCEL I	表計算ソフトの操作およびビジネス書類の作成法の基礎をパソコンを使用した実習を通して習得する。	1 前	56				○
○			PCレセプト実習 I	医療事務コンピュータを使用し、レセプト作成の技術の基礎を習得する。	1 前	42				○
○			医事コンピュータ学科対策	医事コンピュータ検定に合格するための知識を身に着ける。	1 後	36		○		
○			検定対策	電卓検定試験に向けた問題演習により、合格レベルの知識を習得する。	1 後	62			○	
○			商業簿記 I	日商簿記検定 3 級取得に必要な基礎的な知識を学習する。	1 後	150		○		
○			就職実務 I	就職活動に向けた準備として、自己分析、企業研究、各種書類作成、採用試験対策を学ぶ。	1 後	40		○		

○		医療事務 (歯科)	歯科助手として必要な知識を学び、歯科診療報酬の算定の方法を身に着ける。	2 前	162		○		
○		医療事務(歯 科)演習	レセプト作成等の問題に取り組み、知識をさらに定着させる。	2 前	42			○	
○		調剤事務	調剤薬局事務員として必要な知識を学び、調剤報酬の算定の方法を身に着ける。	2 前	100		○		
○		院内マナー実 習	病院受付を想定した実習施設を利用し、患者応対等の実践的な学習をする。	2 前	38				○
○		労災保険制度	労災保険の概要と労災診療費の算定の仕方について学ぶ。	2 前	38		○		
○		EXCELⅡ	表計算ソフトの操作およびビジネス書類の作成法の応用をパソコンを使用した実習を通して習得する。	2 後	66				○
○		WORD	文書作成ソフトの操作およびビジネス文書の作成法の基礎をパソコンを使用した実習を通して習得する。	2 後	131				○
○		ビジネス文書	ビジネスの現場で用いられる用語や文書の取り扱いの知識を学び、社内文書および社外文書の作成方法を習得する。	2 後	45		○		
○		PCレセプト 実習Ⅱ	医療事務コンピュータを使用し、レセプト作成の技術の応用を習得する。	2 後	38				○
○		就職実務Ⅱ	就職活動に向けた準備として、自己分析、企業研究、各種書類作成、採用試験対策を学ぶ。	2 後	93		○		
○		商業簿記Ⅱ	全経簿記検定2級取得に必要な応用的な知識を学ぶ。	2 後	74		○		
合計				23 科目	1,856 単位時間				

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地						
長岡こども・医療・ 介護専門学校	平成25年1月8日	山本 ヒサ	〒940-0047 新潟県長岡市弓町1-8-34 (電話) 0258-35-1600						
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地						
学校法人 新潟総合学院	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565						
目 的	本校は学校教育法に基づき、商業実務専門課程、教育・社会福祉専門課程を設置し、各分野の専門知識・技術を教授し、高度な専門知識・技術及び倫理観を有する人材を育成することをもって、社会に貢献し得る人材を輩出することを目的とする。								
分野	課程名	学科名	専門士		高度専門士				
教育・社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	介護福祉科	平成26年文部科学省告示第6号		—				
修業年数	昼夜	総授業数	講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	2118	1260	300	558	0	0		
単位時間									
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
80人		30人		3人		4人		7人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有)・無) ■成績評価の基準・方法 基準：A～Dの4段階方法：レポート、 期末試験、出席率、授業への取り組み状況などに基づく。				
長期休み	■学年始め：4月7日 ■夏 季：8月6日～8月16日 ■冬 季：12月19日～1月3日 ■学年末：3月10日～4月6日			卒業・ 進級条件	出席率90%以上 成績評価C評価以上 卒業基準検定を全て取得				
生徒指導	■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 面談等実施にて対応			課外活動	■課外活動の種類 施設行事等でのボランティア活動 ■サークル活動 (有)・無)				
就職等の状況	■主な就職先、業界 高齢者施設、障害者施設等 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合※2 100% ■その他 (平成 26年度卒業者に関する 平成27年5月1日時点の情報)			主な資格・ 検定	介護福祉士国家資格 レクリエーションインストラクター 介護事務管理士 Word検定 Excel検定				

中途退学の現状	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 3.6%</p> <p>平成26年4月1日在学者 28名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者 27名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由：、健康状態による不安の為</p> <p>■中退防止のための取組：就学状況に応じた面接、保護者との情報共有に基づく連携</p>
ホームページ	URL：http://n-heart-web.net/openinfo/basic_info.pdf

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年2月22日現在

名 前	所 属
三本 剛	社会福祉法人 信濃川令終会 特別養護老人ホーム岡南の郷
齋藤 有布子	医療法人 立川メディカルセンター 悠遊健康村病院
山本 ヒサ	長岡こども・医療・介護専門学校
清水 優作	長岡こども・医療・介護専門学校
黒崎 勝	長岡こども・医療・介護専門学校
村田 啓助	長岡こども・医療・介護専門学校
小川 貴文	長岡こども・医療・介護専門学校

(開催日時)

第1回 平成27年8月20日 14:00~15:00

第2回 平成27年10月2日 10:00~11:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護総合演習(1)	介護実習に向けての準備として、どのような心構えで臨むのか、また施設側が学生を受け入れる側としての体制について学ぶ。	特別養護老人ホーム岡南の郷
介護総合演習(3)	法人の概要や介護福祉士の業務、役割、ステップアップ研修など就職後の業務について具体的に学ぶ。	悠遊健康村病院

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ・教員に必要な実務上の知識、技術や指導力の向上を目的として、組織的な研修を行っていく。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年2月22日現在

名 前	所 属
高頭 真悟	社会福祉法人 信濃川令終会 特別養護老人ホーム岡南の郷
安齋 結子	医療法人 立川メディカルセンター 悠遊健康村病院

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: [http://n-heart-web.net/openinfo/hyouka\\_school.pdf](http://n-heart-web.net/openinfo/hyouka_school.pdf)

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.n-heart-web.net>

(別紙様式2)

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成27年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間と尊厳の自立	介護の前提として、先ず「人間」とは何か、その存在の意味を考える。そのうえで、人間の尊厳および人権尊重の重要性について考える、また、介護専門職としての自立支援のあり方について学ぶ。	1年・前	30		○			○			○	
○			人間関係とコミュニケーション	介護福祉士に求められる利用者との関係づくりのあり方や方法について学ぶ。そのために必要となるコミュニケーション技法の実際について学ぶ。	1年・前	30		○			○			○	
○			社会と制度の理解	介護業務に携わるうえで、わが国の社会状況や生活の現状について学ぶとともに、社会保障制度の全体像と個別制度としての「介護保険制度」や「障害者自立支援制度」の概要について学ぶ。さらに、関連する制度として、個人の権利を守る制度や仕組み、保健医療に関する諸施策の概要について学ぶ。	1年・前後	60		○			○			○	
	○		介護事務管理士技能認定試験対策	居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所及び介護保険施設等において即戦力として働ける実務レベルの実力を身につけるように学習を進める。	2年・前後	60		○	○		○		○		
	○		情報化社会	PCを使って、ワード、エクセルの基本的な技術の修得、ネットワークの使い方を講義する。	1年・前期	60		○			○			○	
○			介護の基本Ⅰ	生活とは何かを、自らの課題として考察する。そのような状態、場所においても守られるべき、人間の権利としての福祉、介護への視点を持てるよう学習をすすめる。	1年・前後	60		○			○		○		
○			介護の基本Ⅱ－(1)	多様、複雑、高度な介護課題に対応できる専門職としての社会的役割をグループ討議や働く介護福祉士の姿を通して学び、その役割を理解する。	1年・前後	60		○			○		○		
○			介護の基本Ⅱ－(2)	介護福祉士の専門性と介護従事者の倫理を考察する。さらに、利用者、高齢者の生活について、安全の確保とリスクマネジメントについて考察し、専門職としての介護観を確立する。	2年・前後	60		○			○		○		
○			コミュニケーション技術(1)	コミュニケーションに関する基本的な考え方を理解すると共に、接し方や信頼関係について学びます。またチームにおけるコミュニケーション能力を身につけます。	1年・前	30		○			○		○		



(別紙様式2)

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成27年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション技術(2)	聴覚障害者、視覚障害者、言語障害・失語症、知的障害者、精神障害者の基礎的な知識を習得し、利用者の状況や状態に応じ、どのようにコミュニケーションを取れるのかを学ぶ。 また、介護における記録・連絡についての意義・目的等を一緒に学ぶ。	1年・後	30		○			○	○			
○			生活支援技術I-(1)	レクリエーションとは何か、なぜ必要なのかを考察し、様々な対象者に対して社会福祉サービスの視点から、事前評価、計画、実施、事後評価の具体的な方法を学ぶ。	1年・前	40		○			○			○	
○			生活支援技術I-(2)	高齢者が容態急変時に、「まず何をすればいいのか?」「してはいけないことは何か」適切な行動がとれるように、生活支援における知識、技術を学ぶ。 災害時におけるネットワークシステム事例等を最近の災害から学ぶ。	1年・後	30		○			○		○		
○			生活支援技術II-(1)	利用者を科学的根拠に基づき、個々の心身状態に応じた適切な介護の知識技術を講義・グループワーク・演習を通して学ぶ。	1年・前	60			○		○		○		
○			生活支援技術II-(2)	利用者を科学的根拠に基づき、個々の心身状態に応じた適切な介護の知識技術を講義・グループワーク・演習を通して学ぶ。	1年・後	30			○		○		○		
○			生活支援技術II-(3)	学んできた知識技術、1年で学んだ技術を統合し、さらに実践的技術を講義・グループワーク・演習を通して学ぶ。	2年・前	60		○			○		○		
○			生活支援技術III-(1)	食事、衣服に関する技能を講義、グループワーク、実習を通して具体的な生活支援方法を学ぶ。	1年・後	30		○			○			○	
○			生活支援技術III-(2)	現在までの学習を踏まえて、機能低下のある方の自立に向けた生活支援方法をグループワークや演習を通して学ぶ。	2年・前	60		○			○		○		
○			生活支援技術III-(3)	要介護者の心身機能を理解し、グループワークやレポート、演習等を通して介護実践における考え方や視点を学ぶ。	2年・後	30		○			○		○		
合計					科目	単位時間(単位)									

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護過程Ⅰ	介護の支援対象が誰であり、どのような場面であっても、その人の生活課題を理解し、目標を設定し、求められる支援を導く思考方法を理解する。	1年・後	30		○			○	○			
○			介護過程Ⅱ	事例を通し、個々の介護ニーズの捉え方を学ぶ。さらにアセスメント、計画書の作成の演習を行う。また、介護実習Ⅰの体験を踏まえ、介護過程の実践的展開を理解する。利用者の自立（自律）に向けた、利用者の状態・状況に応じた介護過程の理論を確認する。	2年・前	60			○		○	○			
○			介護過程Ⅲ	介護実習Ⅱの体験を踏まえ、介護過程の実践的展開を理解する。利用者の自立（律）にむけた、利用者の状態・状況に応じた介護過程の理論を確認する。	2年・後	60		○			○	○			
○			介護総合演習(1)	介護実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びが出来るために必要な知識・技術態度について学ぶ。	1年・前	30			○		○	○			
○			介護総合演習(2)	介護専門職としての人間的なかかわりを深めるための、コミュニケーション能力や、実習生としての知識・技術を習得すると共に、専門職としての自覚を高める。	1年・後	30			○		○	○			
○			介護総合演習(3)	個別ケアにおける介護計画の立案に関する基本的技術を習得するため、介護過程の授業との連携を通じた事例研究・演習を行う。	2年・前	30			○		○	○			
○			介護総合演習(4)	介護福祉士に求められる知識・技術・人間性を包括的に理解できる。介護サービスにおける論理的思考や説明責任の能力を習得する。介護実習全体を通しての総括として、各学生が自分のテーマに沿った卒業論文をまとめる。その過程を通し、介護福祉士としての自覚を高める。	2年・後	30			○		○	○			○
○			介護実習Ⅰ(1段階)	実習期間中は、常に利用者との関わり・触れ合いを心がける。そのうえで、利用者が生活する介護施設がどのような場であるか、その役割や基本的な介護技術などを学ぶ。	1年・前	45				○		○	○		
○			介護実習Ⅰ(2段階)	利用者への観察や関わり、コミュニケーションを第一にして利用者理解に努める。併せて、介護職員の役割について、観察や助言を受けながら実際に体験し学ぶ。	1年・前	90					○		○	○	

(別紙様式2)

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成27年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護実習Ⅰ (3段階)	コミュニケーションを通して、利用者の身体的・心理的な面を理解する。また、生活支援技術を見学し、簡単な援助を指導者の下に体験する。学内で学んだ知識、技術、態度等を具体的かつ実践的に学ぶ。 また、他職種協働や関係機関との連携方法を学び、チームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。	1年・後	90			○	○	○			
○			介護実習Ⅰ (4段階)	これまで体験してきた多様な介護現場における実習を踏まえて、まとめの実習とする。学ぶべき中心的な課題として、様々な利用者、家族とのコミュニケーションを大切に利用者が抱える生活上のニーズについて個別理解が出来るようにする。その上で、基本的な介護技術を確認し、身に付けること。医療などの他職種との連携・協働の重要性を学ぶ。更に、利用者の施設における生活の質を高める上で、どのような運営上の工夫がなされているか等を学ぶ。	1年・後	90			○	○	○			
○			介護実習Ⅱ	一施設における7週間という長期間の介護実習となるので、介護専門職としての基本的な技術と知識を確実に身に付ける。様々な課題を抱えている利用者に対し、時間をかけてどのような介護・支援が求められるのか、じっくりと取り組む実習とする。	2年・後	223			○	○	○			
○			介護実習Ⅲ (居宅訪問介護)	地域における訪問介護実習において、居宅サービスに必要な知識、技術を理解する。また多職種との連携を理解する。	2年・前	20			○	○	○			
○			発達と老化の理解Ⅰ	人間が成長、発達、成熟、老化と加齢によってこころとからだのどのように変化し、それをどのように受容していくか、高齢者のさまざまな問題点を学ぶ。	1年・後	30		○		○	○			
○			発達と老化の理解Ⅱ	老化に伴う身体的機能・知的機能の変化とそれらが日常生活に及ぼす影響を学び、高齢期に多いさまざまな症状・疾患の特徴をつかみ、多職種との連携を学ぶ。	1年・後	30		○		○	○			
○			認知症の理解Ⅰ	認知症の原因となる主な疾患・症状や治療・予防方法、認知症によって引き起こされる機能や行動の変化や心理的变化、日常生活への影響を学ぶ。	1年・前	30		○		○	○			
○			認知症の理解Ⅱ	認知症による認知・行動機能の変化や心理的变化を学び、その人に合った個別ケアの必要性、家族や地域との関わり方や認知症に関連する制度について学ぶ。	1年・後	30		○		○	○			
○			障害の理解Ⅰ	「障害」とはどのようなものか、「障害」の概念や「障害者福祉」の基本理念を学び、視覚・聴覚・言語・運動機能・内部の各障害のある人の「生活」を学ぶとともに、生活支援を行うための基礎的知識を学ぶ。	1年・前	30		○		○	○			

(別紙様式2)

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成27年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			障害の理解Ⅱ	「障害の理解Ⅰ」で学んだ障害のある人の基礎的知識をもとに、障害のある人への個別支援や家族への支援、多職種や地域との連携について学ぶ。	2年・前	30	○			○	○			
○			こころとからだのしくみⅠ	「健康」とは何か、「健康」な状態の人間のこころとからだのしくみを学ぶ。	1年・前	60	○			○	○			
○			こころとからだのしくみⅡ	「健康・健全な人間のこころとからだ」の状態を学び、そこに病気や加齢、障害による「心身の機能低下が及ぼす影響」を同時に学ぶ。	1年・前後	60	○			○	○			
○			喀痰吸引及び経管栄養の基本	喀痰吸引と経管栄養にはさまざまな種類や手順があり、対象者一人ひとりの状態に合った個別な種類や手法が必要であることを学ぶ。また急変時の対応についても学び、介護の現場で自信を持ってこれらの行為を実践するための教養を身につける。	2年・前	50	○			○	○			
○			喀痰吸引及び経管栄養の演習	吸引用人体型シュミレーターや呼吸音聴診シュミレーター、経管栄養のシュミレーター器具セット等を用いて、吸引や経管栄養を施行する前・中・後の観察点や手法を実践する。	2年・前	20		○		○	○			
○			就職実務Ⅰ	介護福祉士として、能力や労力を他人のために役立てるモチベーションを維持することの大切さを身につける。社会のルール・社会のマナーの重要性を身につける。	1年・後	30	○			○	○			
○			就職実務Ⅱ	介護福祉士として、能力や労力を他人のために役立てるモチベーションを維持することの大切さを身につける。社会のルール・社会のマナーの重要性を身につける。	2年・前後	100	○			○	○			
合計			43 科目		2118時間									
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
卒業要件：出席率90%以上、成績評価C評価以上。レクリエーション・インストラクター資格取得。							1学年の学期区分			2期				
履修方法：上記授業の出席状況、評価試験および該当検定結果による。							1学期の授業期間			21週				
(留意事項)														
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。														
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。														